

多様な個性の調和が、活力を生む組織作り

日本における財産の運用や承継のニーズは増加傾向にあります。お客様の多様な状況を分析し、最適な提案ができるコンサルタントの重要性が高まっています。そこで、当社グループはコンサルタントの育成と働きやすい職場作りに注力しています。

高齢化が進む日本において、社会に対する将来への不安から、資産の活用や運用へのニーズが高まっています。また、日本には長い歴史を持つファミリービジネスが多く、財産運用や事業承継に関する専門性の高いコンサルティングは、社会から切実に必要とされている事業です。地域社会で大きな役割を担う家族経営企業の事業継続性を、より確かなものにする。そこには大きな社会的意義があります。当社グループはこうした財産や事業の承継をされるお客様との関係を大事にしながら、コンサルティングサービスを提供してきました。このような関係性を長くつないでいくことが重要です。

当社グループの経営品質を一層高めるためには、投資

家、お客様、社会という3つの視点が求められます。投資家やお客様からの評価の重要性はいうまでもありません。加えて、近年は社会からの評価の重みが増えています。3つの視点の最適なバランスを追求することが経営品質の向上につながります。

常に変化する外部環境の中で、お客様の家族構成や資産の状況は多様化しています。当社グループはコンサルティングカンパニーとして、お客様それぞれの状況をいかに理解して分析し、最適な提案につなげるか。一連のプロセスを丁寧に実行するためには、人間への愛情が深く、豊かな感性を持つコンサルタントの存在が欠かせません。だからこそ人材の採用・育成には、これまで以上に注力する必要があります。一人一人のコンサルタントのスキル向上はもちろん、チームで補い合うというアプローチも大切です。

また、これからの時代は、デジタル活用によるサービスの品質向上がより重要になります。当社はDXへの取り組みを近年本格化しています。その柱ともいえるのが「ARTシステム」です。「ARTシステム」を進化させるとともに、ユーザーの活用度を高める取り組みにも力を入れていきます。

コンサルタントをはじめ、各部門の社員がいかにモチベーション高く働けるか。それはビジネスの今後の成長を左右するカギと言えるでしょう。当社グループは2022年にサステナビリティ委員会を立ち上げ、その一環として働き方改革にも取り組んできました。多様性への理解の促進と、誰もが働きやすい職場作りを進め、社員全員が日々の業務にやりがいを実感し、常に「ベストを尽くそう」と思えるような企業でありたいと考えています。

多様な個性が調和し、それが活力を生むような組織作りは、すべての日本企業にとって極めて難度の高いテーマです。その高いハードルを当社グループが先駆けて乗り越えた企業と評価されるよう、一層の努力を重ねていきます。

社外取締役

島田 晴雄 Haruo Shimada

